

「クラブ員一人ひとりが自覚をもって、 意欲的に農業クラブ活動に取り組むために どのようにしていくべきか」

クラブ員代表者会議 近畿ブロック 大阪府立農芸高等学校
資源動物科 3年 貴田 琴海
資源動物科 3年 佐々木 胡夜
資源動物科 3年 田中 美空

1. 大阪府学校農業クラブ連盟の紹介

大阪府は農芸高等学校、園芸高等学校、豊中高等学校能勢分校、枚岡樟風高等学校の4校で構成されており、全クラブ員は1,265人です。

2. 大阪府立農芸高等学校の紹介

本校は大阪府の堺市に位置しており、100年以上の歴史がある学校です(図1)。また、大阪府の農業高校で唯一動物を飼養している学校でもあります。学科は、ハイテク農芸科・食品加工科・資源動物科の3学科に分かれています。

ハイテク農芸科では、野菜・作物・果物の栽培や草花の加工、これらの販売を行っており、販売方法の工夫による生産廃棄物の減少に取り組んでいます。また、大阪公立大学との連携や、アフリカとの国際協力など幅広い活動を行っています(図2)。

食品加工科では、お菓子やジャム・パン・発酵食品の製造・加工から販売まで行っており、コロナ前では高校生が主体となって開く高校生カフェを開催しており、多くの方に来店していただいていた。また、無印とのコラボや近隣の商店街でのパンの販売活動も行っています(図3)。

資源動物科では、牛・豚・鶏・鴨の家畜から、アルパカやヒツジ・ウサギなどの動物を飼養しており、分娩から出荷、と畜・解体まで学びます。また、地域の活性化に向け「酪農教育ファーム活動」や「食育活動」「ふれあい動物園活動」といった、命の大切さや食べ物のありがたさ、動物の魅力などを伝える活動を行っています(図4)。



(図1) 農芸高校校門



(図2) ハイテク農芸科



(図3) 食品加工科



(図4) 資源動物科

3. 農芸祭

本校では毎年11月に「農芸祭」を行っています(図5)。農芸祭とは私達が日々の実習で制作、生産したものの展示や販売、ふれあい動物園などを行う農芸高校ならではの行事です。

ハイテク農芸科では野菜や果物、草花の販売(図6)、食品加工科ではパンやジャムなどの販売、制作物の展示(図7)、資源動物科では乳製品やのうげいポークの販売、動物とのふれあい体験を行っています(図8)。

近年は新型コロナウイルス感染防止の観点から来場者は生徒の家族のみとなっていますが、数年前までは一般開放も行われており、毎年多くの方に来場していただいていた。来場者は1万人を超え、開場前から6,000人もの行列ができるなど、地域の方からの期待度が非常に高いことがわかります。

農芸祭を開催するまでの計画から販売物の制作、運営は生徒が自分たちで行っています。制作物は長い間受け継がれているものや新しくアイデアを持ち寄り制作したものなど様々です。

販売物の制作は学年を問わず、各農業クラブのクラブ員が一丸となって取り組んでいます。販売物の種類によって役割を分担し、どのようにすれば来場者のみなさんに喜んでいただけるか、どうすればこの農業クラブの個性をだせるか、魅力を伝えることができるか、と工夫をしています。こうしてできあがった生徒の工夫と思いが詰まった販売物は毎年数分で売り切れるほど大人気商品となっています。

購入していただいた方からは「これ生徒の皆さんで作ってんの?すごいなあ。」「また来年も買いに来たいわ〜!」など、たくさんのうれしい声をいただくことができました。自分たちで販売も行うため、来場者の声を近くで聞くことができ、「喜んでもらえてよかった。」「準備は大変やったけど来年も喜んでもらえるように頑張ろう。」とやりがいを感じるすることができます。

このように来場者の声を聞くことができ、喜んでいる姿を見ることによって農業クラブ員一人ひとりがやりがいを感じることができ、このような行事はもちろん、日々の実習も意欲的に取り組むことができるようになります。



(図 5) 農芸祭の様子



(図 6) 作物の販売



(図 7) ケーキの展示



(図 8) ふれあい体験

4. 収穫感謝祭と家畜慰霊祭

毎年 11 月中頃には収穫感謝祭と家畜慰霊祭を行っています。

収穫感謝祭では、本校で収穫された食材を使用した、かやくご飯と豚汁が振る舞われ、農芸高校の生徒と教職員は、年に一度、食べ物や命の恵み、豊作に改めて感謝します。このかやくご飯と豚汁の食材には、すべて生徒が日々の実習で栽培、育成し、収穫したものを使用します(図 9)。

例えば、野菜はハイテク農芸科の野菜専攻が、米は同じくハイテク農芸科の作物専攻が日々の実習で栽培し、収穫したものを、豚肉は資源動物科の養豚専攻が、鶏肉は総合環境専攻が育て、精肉したものを使用します。また、調理も生徒の手で行っています。食品加工科では、生徒たちが前日から準備を進め、感謝祭当日には、生徒と教職員合わせて約 700 食分のかやくご飯と豚汁を製造します。こうして自分たちの手で作ったかやくご飯と豚汁はとても美味しく、大きな達成感を得られます。

このような行事や取り組みは、自分たちの日々の努力が反映される場の一つとなり、日々の実習へのモチベーションに繋がっています。また、食や命に改めて感謝することで、農業の大切さや私達高校生が農業を学ぶことの必要性を再確認することができ、農業クラブ活動への意欲の向上にも繋がっています。

家畜慰霊祭では、農作物や家畜と日々向き合う生徒たちが自然の恵みに感謝し、収穫感謝祭のためにと畜された命や、普段の管理実習の中で亡くなってしまった命に対して改めて感謝し、冥福を祈る行事です(図 10)。

収穫感謝祭の放課後に、“畜魂乃碑”という石碑の前で家畜への慰霊、献花を行います。数名ずつ畜魂乃碑の前にハイテク農芸科草花・造園専攻が栽培した花をたむけ、手を合わせて命の恵みに思いを馳せることで霊を慰めます。普段、日常で当たり前のように食べられているお肉や野菜、果物は決して当たり前のもではなく、自然や作り手からの命の恵みです。

本校では、そんな家畜たちの命に対して感謝の気持ちを忘れないように、受け継がれてきた年に1度の重要な慰霊祭です。学校生活で日常的に行われていることを、改めて感謝する日のしめくりとなる毎年続く伝統で、これから先も大切にしていきたい行事です。



(図9)かやくご飯と豚汁



(図10)家畜慰霊祭の様子

5.まとめ

これらの活動を行うことで、生徒一人一人が食や命のありがたさ・農業の必要性を改めて実感し、その後の農業クラブ活動に、より意欲的に取り組むことができます。

農芸祭では、普段の学びの成果を発揮できるため、生徒が一段と積極的に取り組んでおり、収穫感謝祭では3学科が協力することから、学校で一体感が生まれました。また、家畜慰霊祭では食や命に感謝し祈ることで、その後の実習の際、より自覚をもって作業に取り組むようになりました。

これらの活動により、学んだことを私たちがしっかりと伝えていくことで、農業クラブ活動に意欲的に取り組む高校生であふれるよう、農業高校生が一丸となって一緒に頑張っていきましょう。